

平成 23 年度第一回日本脊椎脊髄病学会社会保険等システム検討委員会

開催日時：6月25日（土）17:30-19:00

場所：東京ガーデンパレス 2F「芙蓉」

報告事項

1. 平成 22 年度委員会活動報告

5回の委員会を開催、委員の役割分担を決定、注意喚起文〈診療報酬請求における注意点と今後の対応について〉をホームページに掲載、外保連から診療報酬に対する要望書提出、シンポジウム〈脊椎外科の保険診療と審査〉の企画立案しアンケート調査を評議員に対象に実施、また電話会議の積極的活用などが行われた。

2. 社会保険目安箱がすでにホームページに開設されており、すでに投稿が1件あった。

3. 平成 22 年度〈脊椎外科保険請求アンケート〉 調査では評議員 58 名（37%）からアンケートの回答を得た。多椎間複合的脊椎手術の保険収載を望む声は多く、術式の定義や手術高位数の数え方など一定の見解が得られていないことが改めて浮き彫りとなった。アンケート結果は論文形式で今年度中に本学会の学会誌に投稿する。

討議事項

1. 佐藤勝彦委員長から震災後の就労状況から委員長業務継続上の困難さについて説明があった。審議の結果、このまま佐藤勝彦委員長が継承するが、サポート体制を拡充し補佐役として空席となっていた副委員長として山縣正庸委員が委員長に指名され、委員会の承認が得られた。

2. 社会保険目安箱の責任者は佐藤勝彦委員長が務めることが決定し、今後各委員の宣伝などにより普及に努めるとともに、目安箱の内容を定期的に委員会で検討していくことが決定した。

3. 合併症アンケート調査（担当理事、山口大学 田口敏彦教授）に、身長と体重を加えて超肥満と術後合併症との因果関係に関して調査できるよう、アンケートの修正をお願いする。

4. 平成 24 年の JSSR 学会において平成 23 年度と同様にシンポジウム〈脊椎外科の保険診療と審査〉を企画していただくよう、学会事務局をお願いする。

5. 来年以後での脊椎手術症例の実態調査、またはデータベースを作成することを理事会に担当理事から上申する。